

だと改めて思いました。

4. 出産をあきらめる。
5. 性交を拒否される。
6. 配偶者に負担をかけ、離婚につながる。
7. 母親がそうであると知れたら子供もいずれそうなると思われ、子供の結婚や就職に不利になる。
8. 家族が感染していると思われ、差別的扱いを受ける。
9. 親戚の付き合いから疎外されている。

(他に同旨・同様回答 78 件)

⑧友人・知人関係

1. 患者であることを知られたために、それまでと違った態度で接せられたり、必要以上に警戒されたり、避けられたりするのではないかと思う。
2. B型C型肝炎患者の区別が私自身明確ではありません。だから漠然と不安に感じる。そして何が原因で感染するのかはつきりと分かりません。自ずと防衛の為、避ける様になると思う。私の無知からの行動が、相手の感情を傷付ける事があると思う。
3. 近くにいるだけでうつるのではないかと、周囲が逃げていく差別。
4. 感染すると思われてさまざまなことを拒否されそう。

(他に同旨・同様回答 81 件)

⑨近隣関係

1. 住まいの近所での非難中傷や、親・親戚とも距離をとられる。

(他に同旨・同様回答 30件)

⑩学校・保育園・託児所関係

1. 患者の子が、学校などで差別的な扱いをされる。
2. 保育園、託児所などが、患者と同居している家族の幼児を預かることを拒否する。

(他に同旨・同様回答 4 件)

⑪公共・民間施設等関係

1) 入所拒否等

1. 老人ホームで研修に行ったときに、C型肝炎の利用者が隔離されていて雑なケアをされていた。

(他に同旨・同様回答 1件)

2) 利用拒否

1. 旅館、ホテルなどの宿泊を拒否される。
2. C型肝炎にかかっているあるタレントさんが、以前プールに入るのを拒否されたと聞いた事があります。
3. サッカー・ラグビー・柔道など、出血が伴うような激しいぶつかり合いなどがあるスポーツに入れてもらえない。
4. レジャー施設で入場を拒否される。
5. 共同入浴場や劇場、映画館での入場制限
6. エステに行って断られた友人が、家族の方がB型肝炎で断られたのを聞いて、気の毒だと思ったが、B型肝炎がどのようにして感染するのかがわからない為、どのように対応していいのかわからなかった。
7. 床屋での顔そりを拒否される。
8. お店での接客を嫌がられる(自分が客・店員の両方の立場)。

(他に同旨・同様回答 65件)

3) 乗車等拒否

1. そばにいただけで嫌な目で見られたり、電車など、公共交通機関に乗車拒否をされたりしているのではないかと思う。

(他に同旨・同様回答 13件)

4) 行事等参加拒否

1. サッカー・ラグビー・柔道など、出血が伴うような激しいぶつかり合いなどがあるスポーツに入れてもらえない。
2. イベント等への参加を断られる。
3. 職場や学校行事の参加を断念させられる。

(他に同旨・同様回答 12 件)

5) 入居拒否

1. アパートの入居を拒否される。

(他に同旨・同様回答 6件)

(ii) 偏見的扱いをいう回答

1. 国からの補償をたっぶりともらっているという誤解により、ねたまれている。
2. 汚いもの扱いを受ける。
3. 陰口や侮辱、侮蔑に近いと思いますが、人格そのものを悪く言われ、人間否定されることが考えられます。
4. 何をしても疲労感が強く他の人から見たら、怠けているように思われるのではないかと思います。休み休みでないといけないのでしょうから、温かく見守ってあげないといけないのではないのでしょうか？
5. 感染者の家族も偏見の目でみられる。
6. 直接的に感染することはないと思うが、手をふれたり、側で話をすることや咳などにより感染するのではないかと、誤解されていると思う。自分も左足を大腿骨骨頭壊死により人工骨を入れた障害者なので、いろんな意味で差別をされているように思うことがあるので、患者自身は大変な思いをしていると思う。
7. テレビのニュースなどで取り上げられ方が、どういった経緯で感染するの全く放送されないの、何となく怖い病気だと実情を知らない人間にうえつける。
8. 自分の健康管理をしっかりしてなかったのではないかとと思われると思う。例えば、酒やたばこを飲みすぎたとか、生活習慣が悪いとか等。
9. 薬物の回し打ちや刺青など、反社会的な行動が原因で感染したと思われる不利益。
10. 完治していても、以前そうだったことで偏見をもたれる影響が出る。
11. ハンセン氏病の場合のように、無理解から隔離を求められる。
12. 遺伝すると思われるかもしれないので、親がキャリアーなら子供も感染者と思われるかもしれない。
13. 憐れみの目で見られる。
14. いわれのない、家族を含めた差別的な発言を陰でされる。
15. 一時TVなどで報道されたので、私たちの頭の中には、今まであまり気にしなかったものが自然と気にするような形になりました。報道されたことで、かなり偏見の目で見られるような形になったのではと思います。

(他に同旨・同様回答 92件)

(iii) 精神的負担を挙げる回答

1. 精神的 不利益というわけではないが、B型、C型肝炎になることによって、社会的に疎外されるので、精神的なトラウマ（心の傷）になり、二次的に、アルコール依存症や薬物依存などになりやすい。
2. 間違った情報が、不利益な取り扱いを受けている。
3. 患者であること自体が悩みの種となって日常的にストレスを感じていそう。
4. 一生不安を抱えていくのが大変だと思います。
5. 自分が悪いのではないのに、治療費やつらい治療に耐え、自分の将来が不安になる。
6. 家族などにも、自分の病気のことでも気をつかうとか、申し訳なく思ってしまうところがあるのではないかと思います。
7. 家族など周辺の方が経済的・精神的負担が大きいと思う。
8. 今後の自分の体に対する不安が大きく、安心して暮らせないと思う。
9. 輸血提供を断られる。

(他に同旨・同様回答 53件)

(iv) 経済的負担を挙げる回答

1. C型肝炎の治療（インターフェロン）はお金がかかると聞いているので、助成金など潤沢で無い場合は結果として、日常生活に不利益を被ることになると思う。
2. 15年程前に大変お世話になった方は輸血によるC型肝炎の方でした。若いころ病気が発覚して間もなく職場に復帰されましたが、あらぬ噂を耳にしたり、中傷的なことを言われたり、女手一人で一人息子さんを育てることがどんなに大変で辛かったかを私に話してくださいました。その感染症にかかった人しかわからない孤独感・苦しみ・痛みや「自分が原因でなった病ではないのにどうして」という悔しさみたいなものを感じました。

(他に同旨・同様回答 50件)

(v) 生活の不自由等を挙げる回答

1. 感染したことを、自分の親以外の友人・知人には言えないでいる（明確に経験していると思う）。

2. 世間の偏見がある以上、堂々と肝炎患者である事を公にする勇気のある人は良いとしても、勇気のない人には病院に行くにしても、どこかに臆病な気持ちになってしまうのかなと思う。
3. 外出しづらい。
4. 自身が結婚しようとしなない。
5. 十分な学力があっても、大学進学をあきらめる。
6. 具体的な事はイメージできないが、日本人特有の陰湿な集団的いじめがあると思う。
7. 住宅ローンの申込ができない（団体信用保険に加入できないため）。
8. 患者であるということで、社会全般において差別的、屈辱的扱いを受けることがある。
9. 私は、肝炎患者さんであることを理由に、どうして不利益を受けないといけないうのか分かりません。世の中には、たぶん、私には想像できない理由で差別を受けているだろうと思います。全ては、社会の、周囲の人間の認識不足、思い込みが殆んどだと思います。私どもの家族には障害者が何人かいますから、いくら正しいことを説明しても、受け取る側が拒否し差別されます。その構造と似ています。
10. 自分から卑下して患者であることを自ら明かしたことがあった。難病に耐えて努力しているとでも言いたかったのだろうか。
11. 感染症と定義されるすべての病気は「罹患する」という危険性を連想させる。それによる未知な人間からの差別、侮蔑は根強いものだと思う。
12. A型、B型、C型肝炎がごちゃ混ぜの認識による差別。事実、自分も違いが良く分からない。C型肝炎が輸血等の血液感染だったかな、という程度の認識しかない。

(他に同旨・同様の回答 27件)

(vi) その他

1. 自分の身近にいた人は普通に生活し、普通に仕事をしていたので社会的な不利益を受けていたとは思えない。
2. 非感染者と比較して、医療費が増加するかもしれない。また医療保険に入らず金銭的に不利益を受けることもあるかもしれないが、同様の事は肝炎患者に限ったわけではなく、他の病気に罹患している人にも起こりうる事だと思われ、肝炎患者特有の不利益はそう多くは無いと思われる。
3. 最近の風潮から明確な差別は少なくなっていると思う。B型肝炎、C型肝炎の症状や治療方法が分からない人も多く、どうすれば感染するのか、感染する病気なのかも知らないのだから、差別も起こりにくいと思う。併せて、感染している人も公表しないので、周囲に感染者がいるのかもわからない。性交渉から感染していると思われているエイズと違って、肝炎感染者は気の毒だという思いのほうが強いように思う。差別というよりは、むしろ気を遣ってもらえるのではないかと思う。
4. 入社以来、私の無二の親友がC型肝炎で死亡しましたが、経済的な負担は少しあったものの差別は公私ともに全くありませんでした。何故差別を言うのかわかりません。
5. 名前を知っている程度で、自分自身人間ドックで「肝炎ウィルスのチェックをします」と言われて、何も判らないまま検査をした位で、具体的にどのような病気なのかまったく知らない。ただ、「恐ろしい病気だ」とのイメージだけはある。なぜこんなイメージがあるのかの自覚さえない。自分の周囲で知る範囲に該当する人を知らないのだから、実感もない。
6. 自分も特定疾患患者でもあり身障者でもあるので、不利益なことがあまり理解できない。
7. 性交渉で感染した人がいる以上は、差別とは思いません。我々一般市民は知らないから念のため拒絶するのは。差別をしないという変な道徳観で感染を広げてしまうほうがとても恐ろしいことです。もっと啓蒙・啓発活動をするべきです。
8. 私の母も売血輸血が原因でB型肝炎になり、最終的には肝硬変へと進行しました。あの母の苦しんでいた顔が今でも忘れられません。しかし、家族が大事に手助けすることが必要だと思えます。当時は、治療法も確立されておらず、入院を繰り返していましたが、医師も懸命になって治療にあたっていただきましたが、残念ながら、苦痛の表情でこの世をさりました。現在は、医療技術も当時と比べれば格段に飛躍しているものと思えますので、治療さえしっかりとすれば問題ないのではないかと思います。
9. 病気自体はどの病気でも怪我でも不利益で、それをことさら、この病気だから差別されていると感じるのはおかしい。病気の予防を犠牲にして、妻だから保菌者と性交渉しなければならぬというほうがむしろ、バイオレンスではないか？
10. B型・C型患者の一部が声高に病気をかさに優遇を求める姿に、憐れみや同情より、そんなに病気になったのが偉いのかと憤慨する人が出てくると思う。病気を利権にしようとする人達に利用される姿は可哀想だとは思いますが、やりすぎると、むかつきすら覚えてしまう。
11. 以前、B型肝炎の人と同じ職場で、彼女は料理自慢で「美味しいから食べてみて」と言ってお弁当のオカズを自分の箸で私の弁当箱の中に入れてくれた。あまり親しくもなく嫌だったが、善意と思い病気のことを知らずに何度も食べた後、看護

師だった別人から注意され驚き、会社を退職して病院の梯子をした。受付で事情を話した瞬間、皆飛びのいて手を引っ込めた。未だ感染してるかどうか分からない時点で、明らかな差別のパフォーマンスがあり驚いた。感染者は病気を公にしなくてもいいから、無防備な人に対して自分自身で注意しなければならず、あまりにも厚かましいから差別されるのだと思う。感染症の人がみんな自覚を持って対応してくれば、自然と差別の眼も緩和されると思う。

12. こんなに設問があるので、なんか怖い病気なんだろうなと思って答えてるだけ。実際は知らないので、なんとも言えません。
13. このようなアンケートにより、変に騒がれること。
14. 偏見・差別があるのか、実際見聞きしていないのでわからない。
(他に同旨・同様回答 88件)

問2-11： 肝炎患者が偏見や差別を感じる場所

BB型・C型肝炎患者が、肝炎患者であることを理由として偏見や差別を感じたことがある場所として、上記以外でどのようなところが考えられますか。具体的にお書きください。

*肝炎患者が偏見や差別を感じていると思う場所・場面についての回答数の集計結果は、以下のとおりである。

①職場など		
(1) 就職		7件
(2) 面接		4件
(3) 職場		16件
(4) 会社		4件
②人が集まる場所		
(1) プール		43件
(2) 映画館		28件
(3) イベント会場		5件
(4) コンサート		11件
(5) アミューズメントパーク		3件
(6) テーマパーク		6件
(7) 公園		14件
(8) 遊園地		17件
(9) 娯楽施設		14件
(10) ゲームセンター		3件
(11) カラオケ		12件
(12) コンビニ		4件
(13) スーパー		29件
(14) デパート		10件
(15) エレベータ		6件
(16) 結婚相談所		3件
(17) コインランドリー		1件
(18) トイレ		20件
③接触が多いところ		
風俗		20件
鍼灸		3件
エステ		13件
ネイルサロン		2件
稽古		1件
献血		37件

④公的機関		
役所・官公庁		25件
病院・医療現場		23件
産科・産婦人科		8件
学校・教育現場		10件
公的機関		2件
⑤旅行など		
旅行		17件
外国		2件
⑥家庭・周辺		
家庭		26件
自宅		12件
親族		16件
親類・親戚		36件
近所		13件
交際		2件
見合い		1件
冠婚葬祭		7件
⑦保険		
保険		9件
⑧その他		
インターネット		8件
不動産		3件

問2-13：偏見や差別防止策

上記以外の機関や活動で、B型・C型肝炎患者に対する偏見や差別の解消のために効果的であると思うものを具体的に記入してください。(例えば、厚生労働省、地方公共団体、医療機関、教育機関、マスコミ等)

(i) 啓発・広報・情報開示を挙げる回答例

1) 各機関の連携を挙げるもの

1. 何事も繰り返す事が大切だと思います。自分自身も果たして正しい認識を持っているのかは自信がありませんが、とにかく繰り返し行う事が大切だと思います。①体験者(特に著名人)の体験談を色々な媒体を通じて発表する。②厚生労働省、医療機関によるポスター・小冊子等の配布。③マスコミによる正しい情報の発信。④学校(小・中・高・大)での教育。⑤会社・組織における教育。⑥地方自治体の広報誌による啓蒙活動。
2. 厚生労働省・地方公共団体・医療機関・教育機関・マスコミ、その他。一部の機関ではなく、全体に近いかたちで、正しい情報の周知徹底が必要だと思う。どこでも、そこに属する誰でも、正しい情報に基づいて平等な対応ができるようにする。まずは、行政・医療・教育など特化した機関が均一的な態度をとれるような情報公開・教育を徹底する。平行してマスコミから情報を発信する。
3. 厚生労働省。偏見や差別があった時に、全国一斉の啓発ポスターもしくはキャンペーンを実施する。医療機関や地方公共団体を始め、国民全体での啓発を目指して数日～1週間程度活動する。報道機関もこれを大々的に取り上げ、「今だからこそ」偏見・差別をなくすべきという姿勢を明確にする。「あった度」に行うのがポイント。
4. マスコミの報道は事実と異なっている点や偏向されている点が多いので、あまりに流し過ぎると却って胡散臭がられると思う。それよりは学校や公共施設、地方公共団体、医療機関、各職場を使えばいいと思う。近い人物からの口コミなら信用しようかと思う。国の機関である厚生労働省から判りやすいパンフレットを配布して、個人個人の理解を深めることがいい。癖のない絵柄の漫画家に漫画を依頼したりするのもいいと思うが、やりすぎないようにするのがいいと思う。民主党の某議員のように利権にしようとする派手に動いたイメージが強いと、理解しようという気持ちにすらなれない。
5. 厚生労働省。マスコミ(新聞社、ジャーナリスト、ルポライター)。厚生労働省のホームページで、具体的なB型・C型肝炎の症状や治療方法を誰でも見ることができるようにして、啓発活動をしていく。新聞社でキャンペーンをはって、B型肝炎、C型肝炎に関するルポルタージュを紙面に載せて、読者に理解を求めるようにする。
6. マスコミや、厚生労働省・医療機関・教育機関・文部科学省の連携。やはりマスコミがいちばん効果的であると思う。ただし、どのメディアも一斉に同じような形で、継続的に差別解消について訴えていかなければならない。厚生労働省が指揮をとり、医療機関が中心となって保護者等を対象にして、学習会や説明会、講演会を繰り返す。肝炎だけでは保護者が集まりにくいので、他の偏見をもたれている病気とともにシリーズ化のようにして、説明や学習を繰り返す。学校も協力することが必要なので、文部科学省も加わる。
7. 自治体や、厚労省等、各機関が一体となって、広く正しい啓蒙活動を展開すること。いたずらに扇動しかねないマスコミはさけるべき。
8. 病院、保健所、役所等の行政機関が、広報誌などで出席者を募り、接し方や予防法を指導したりする日をつくる。
9. 地方公共団体や教育機関が、セミナーなどを大きいホールで行う。分かりやすいテキストや漫画をつくる。
10. 国による安全宣言を出す。今の国の発言は信用がおけないため、後押しするためにマスコミが出る。テレビの媒体で、専門家を交えて宣伝する。同時に広告とCMを出して、ブームをつくる。
11. 地方公共団体、教育機関、マスコミなどが活動の主体になるべきだ。肝炎の事を明確に説明する場を設けて、啓発に取り組んで欲しい。原因と結果が理解出来れば、変な憶測や誤解が生まれない。患者を取り巻く環境が不安である事が、差別や偏見を生む一番の原因だ。それには小さい頃からの教育が肝心だと思う。マスコミなどが一番先に取り組むべきだ。
12. 市、県の役所と病院、それと民間の大きな企業などが動けば効果があるのではないか。企業の慈善活動としてでも、活動していれば理解も広まりやすいのではないか?
13. 医療機関やマスコミ、教育機関。お医者さんがはっきりと、こういう事ではうつらないという内容のものを発表し、それをマスコミが大々的に年に何度も流すこと。患者の家族の生活取材して、こんなことならうつりませんよ、という内容のものをテレビなどで流す。子供が小さいうちから、肝炎について誤った知識を持たないようにしっかりと教育する。

(他に同旨・同様回答 11件)

2) 担当すべき機関等について

<1>厚生労働省を挙げるもの

1. 厚生労働省が明確なガイドラインを作成して教育機関、マスコミが周知させる広報。
2. 労働基準監督署が、職場での差別禁止。
3. 厚生労働省から地方自治体を通じて、各家庭に病気に対しての詳しい情報や、それに対する理解のためのパンフレットなどを配布する。また、学校教育の中で子供たちに知識として指導する。

(他に同旨・同様回答 11件)

<2>法務省、人権擁護局・法務局を挙げるもの

1. 法務省が、インターネットによる啓蒙活動。

(他に同旨・同様回答 1件)

<3>地方自治体を挙げるもの

1. 自治体で、偏見や差別をなくす日を設定する。
2. 各市町村の社会福祉協議会や自治会で、回覧板やポスターなど。
3. 各地域の保健所や役所の季節ごとの予防接種で。

(他に同旨・同様の回答 32件)

<4>医療関係機関・関係者を挙げるもの

1. 医師会で、機会ある毎に医師による啓発行動。
2. 病院における啓発活動として、待合室でのビデオ上映。
3. 赤十字病院の献血センター。そもそも肝炎が悪いイメージで認知されたのは、私の場合は献血に行って肝炎の人は輸血出来ないということを知ったからです。私は肝炎ではありませんが、献血の間診票を記入する度にクロイツヤコブ病や肝炎やエイズの名前がインプットされて、AIDSと同じ位コワいというイメージが出来上がったので。輸血は出来ないけど、会話をしたらうつるとかいう病気ではないことも、ポスターなどで告知してはどうか？
4. 医療機関による学校での講演会等、幼い頃から意識を持たせることが大事。
5. インターネットで、医者がB型肝炎、C型肝炎について細かく紹介したWEBページを創設すること。

(他に同旨・同様回答 14件)

<5>政治家・団体、地方議会を挙げるもの

1. 政治団体。患者自身の啓蒙活動や、患者の中心の組織が、いろいろな公的な場で訴えることだと思います。
2. 地方議会。地方議員は生産性が低く、集票活動以外は暇なんだから役に立つ活動をしてもらいたい。

(他に同旨・同様回答 1件)

<6>弁護士会を挙げるもの

1. マスコミなどが啓発活動をする。弁護士会あるいは弁護士が、そういった差別や偏見解消をなくせるような団体を組織し、活動していく。

<7>民間企業を挙げるもの

1. 一般企業が、募金活動、啓蒙活動、ネット広告、ホームページ作成、キャンペーン期間設立。
2. 鉄道関係会社や駅前の企業が、電車の中、駅の中や駅ビルにポスターを貼ることで、さまざまな年代の人が目にすることができると思う。

(他に同旨・同様回答 3件)

<8>マスメディアを挙げるもの

1. とりあえず感染経路だけでもわかってもらえたらいいと思う。テレビでタレントにしゃべらせると変に同情されてそういう差別とかあるかもしれない。子供とかとくに。哀れみとか同情は時によって侮辱されるよりつらいと思うので、法で縛るのもどうかと。安易に権力やら大きなものの力に頼るのはよくないと思うけど、一人ひとりの意識を変えるきっかけを与えるには、やはりテレビというのが一番効率がいいと思う。でも、あくまでもきっかけであって「こうしなくてはいけない」という答えを押し付けるものであってはいけないと思う。なので、先に書いたようにタレントには同情じみたコメントをさせるんじゃなくて、少なくとも、病気に対する正しい知識を持っている人はいるということを体現してもらいたい。あと、患者自身にも言葉をもらいたい。けど、ただ差別のつらさをぶつけるのではなくて、そういう偏見に満ちている社会を受け止めた上での言葉がほしいと思う。敵対関係になってしまったら、もうどうしようもなくなるので。
2. テレビで、肝炎について正しい知識を提供するような番組。関連各所、患者、医療現場、家族、地域などの各立場からの見識などを紹介。視聴者が身近なものとして考えることのできるような内容のものがいいと思う。
3. 一定期間毎の特集記事や毎回一部掲載などの義務付け（日常生活における非該当者の勘違いをなくす）。
4. マスコミは、啓蒙ドキュメント番組をゴールデンタイムに放送する。真夜中に行っている様な「NNNドキュメント」などの真摯な番組を積極的にゴールデンタイムに放送すべき。医療機関、学会もそこに積極的に参加し、具体的かつ詳細で判り易

い内容の番組を何度も採算度外視で放送する。現状の良い所と悪い所、患者の皆さんが困っている事、希望している事をプライバシーを徹底して保護しながらも、出来るだけ患者さんの肉声を流してもらい、それに対しての医療機関をはじめ、治療関係者側の回答を放送する。最初は見られなくても、真摯な内容なら次第に見る人も増え、これが啓蒙に繋がると思う。

5. どのような病気かよく理解できていないところが多いので、多くのメディアで周知することが必要である。裁判等で報道はされるが、原因は病院等の注射針の使いまわしが原因とされていたと思うが、具体的に、どんな時に感染し、どのような治療となるのかの情報がわかりにくいと思う。医療機関、学校などの教育現場、地方自治体の広報誌などで、広く情報を伝えるべきだ。
6. 患者側、患者ではない側を同じように取材し、それぞれの立場を踏まえたいうえで、偏見や差別があってはならないものであるというスタイルの番組。
7. テレビ、マスコミが、過去の実例などを放送し、討論会などしたらいいと思う。
8. facebook や mixi などのソーシャルメディアや、民法・NHK など、マスコミでの特集で。どんな差別があるか、どんな悔しい思いをしたか、つらかったか、ドラマや広報を使って繰り返し正しい知識とともに知らしめる活動をする。エイズだって今でも確かに差別するやつはいるけど、握手やキスくらいじゃうつらないとわかってるし。差別やいじめをする奴の方が死ぬほどダサイ、格好悪い、みっともないんだと思うくらいの啓蒙をしないと。TBSの「はなマルカフェ」や、NHKの「あさいち」等、主婦が見る番組で詳しい情報を流すとかなり効果があると思う。涙を絞るストーリーがあると、なおよい。
9. 複数のマスコミが同時に啓蒙活動を行う。またはエイズデーのようなキャンペーンを大々的に行う。
10. マスコミが、正しい情報を伝えること、不安を煽るような報道を控えること。
11. マスコミがいちばん効果があると思います。国が費用を負担し、テレビやラジオでコマーシャル風に流せば、大人も子供も国民全体が認知すること、大だと思えます。
12. 公共広告機構。乙葉の『チェンジ喘息』は良い啓蒙活動だと思う。肝炎もやったほうが良い。
13. 正しい知識が得られないことが、偏見等誤った行為の原因だと思う。だから、正確な知識を広く知らしめられればよいと考える。例えば、マスコミ全般（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等における報道および広告）その他、広報誌など。どのような病気か、患者の周囲への影響は何か、周囲の人々が行うべき行動は何か、患者はどのような場面で苦痛を感じているか、国（政府）はどのような政策を行っているか、などについて触れて文字や言葉で伝える。
14. マスコミが取り上げるのが効果的。街角調査。学校等で意識調査。
15. 耳から入るイメージ（聴覚）は、目から入るイメージ（視覚）よりも、意外に記憶に残るものです。費用対効果から考えると、B型肝炎やC型肝炎の症状や感染対策のコメントを入れてラジオで放送してもらおうと、テレビ放映より効果的だと思います。→案外、ラジオ放送を聴いている人は多いですからね。
16. 国、医療機関、患者団体が、TVCM、新聞の意見広告。
17. 新聞社が、病気を患ってる方達の白書。
18. マスコミと医療機関が、報道や余計な取り組みを増やしていくと偏見や差別が止まらなくなりどんどん酷くなるから、何もするなどは言わないけど、詳しい説明などはせず、病院のような医療機関の関係者が、通院してきた人に話すぐらいがちょうどいいと思う。

（他に同旨・同様回答 23件）

<9>インターネット・バナー広告等を挙げるもの

1. 機関はわからないが、公的な、ネットでの啓発、バナー広告など。
2. インターネットのHPやコミュニティー系で肝炎患者の声や今の状態等で正確な情報を分かりやすく（専門用語はなるべく使わず一般感覚で）また詳しい症状を知ってもらおう場をつくる。ネット広告みたいに興味を引く動画配信なんかも効果的だと思う（思わずクリックしてもっと中身を知りたくなるような…アニメ動画などを使うと訪問率が高いと思う）。

（他に同旨・同様回答 5件）

<10>地域コミュニティー・町内会・自治会を挙げるもの

1. 地方（公民館などの小さいコミュニティー単位）で、タウンミーティングなどのようなこと。

（他に同旨・同様回答 18件）

<11>民間団体・ボランティア、ソーシャルネットワークを挙げるもの

1. ソーシャルネットワークによる口コミ等の、草の根運動（活動）はより良い効果を上げることができると思います。最近では以前と比べて病気についての認識もしっかりと広がり、差別も少なくなっているのではないかと思います。いかがでしょうか。差別を解消するためには一人ひとりが病気についての理解と認識をしっかり持つことからだと思います。

今はメディアやソーシャルネットワーク等によるロコミ（発信）はかなりの効果があると思います。

（他に同旨・同様回答 4件）

<12>患者団体、患者を挙げるもの

1. 患者団体による、インターネットでの啓発活動。
2. 厚生省の告知は見たことが無いのであまり期待できない。患者団体からのPRが有効だと思う。感染ルートの可能性や予防方法の告知と、実際に患者が感じている精神的・肉体的負担・不安を少なく出来るよう、国等の公共機関のサポートを求めていく。
3. 患者団体による、偏見や差別の解消を訴える署名活動。
4. 肝炎であることを公言しない。
5. 報道機関が、患者自身の勇気ある発言の積み重ね。
6. インターネットサイトで、患者本人による、差別や偏見を受けた事例などをヤフーのトップ画面などの目につくところにリンク表示する。

（他に同旨・同様回答 12件）

<13>著名人、芸能人、プロスポーツ選手等を挙げるもの

1. 厚労省、都道府県等が、漫才師オール巨人さんが、自分の経験をTVのCMに出て話しているように、もっと芸能人や有名人が、テレビ等のマスコミで訴えると良いと思う。

（他に同旨・同様回答 3件）

<14>その他

1. テレビ、ラジオ、回覧板、ポスター。バス、地下鉄、鉄道の車両内、健康診断、人間ドック、世帯統計調査時にチラシやリーフレットを渡す。
2. 新聞社、雑誌社、厚生労働省、都道府県、市町村、各学校。新聞広告、新聞・雑誌の記事、TV番組で啓発。学校、職場での啓発活動。イベントで啓発。サッカーや野球などのスポーツイベントでの啓発（チラシの頒布など）。
3. 学校の教育や、報道番組。身近にこの病気にかかっている人がいないので、病気に対して興味が無かった為、番組や講演などで説明されていても、聞こうともしませんでした。知らなかったら、知らないままで、逆に偏見の目では見る事も無かったでしょうが、今回のアンケートで感染する怖い病気だとわかって、確かにこれからは偏見の目で見てしまうでしょう。感染すると言っても、どこまでの感染力があって、何をすれば感染するのかを、関心のない人達にも目に入るように、耳に入るようにすれば良いのでは・・・。

（他に同旨・同様回答 3件）

啓発・広報、情報発信の具体的な手段・方法

手段・方法	件数
広告・広報	85
特集報道・報道	35
特集記事・記事	13
講演会	21
研修会・学集会・勉強会	18
授業	9
キャンペーン・イベント・タウンミーティング	15
テレビ	42
ラジオ・放送	8
DVD	2
映画	2
意見広告・バナー広告	4
交通機関（電車・バス）・車内広告	6
ポスター	9
チラシ・小冊子	18

(ii) 教育を挙げる回答例

①厚生労働省等の国の行政機関を挙げるもの

1. 厚生労働省と教育機関が、病気に対する知識を徹底的に教育すること。分かりやすく伝えること。小さなお子さんには難しいなら、ある程度の年齢になってから教える方が偏見や差別が生まれにくいと思う。
2. 厚生省などが国全体に教育をする。たとえば企業やコミュニティー、雑誌や学校など、マスの相手に対して、正しい知識と予防策、病気の内容を教えること。
3. 病気の内容や感染についての正しい知識を厚労省と教育機関が一体となって教育をする。
4. 厚生労働省が、教育の一環として、小学校からの必須授業にする。
5. 厚生省が、小学校教育からの取り組み。
6. 文科省、教育機関が、保健の教科書などに、病気の症状だけでなく、その病気を持つ患者に対してどのように接したら良いかのガイドラインを載せる。

(他に同旨・同様回答 8 件)

②教育関係機関を挙げるもの

1. 学校の保健体育等の授業で、世間の主な病気（インフルエンザ・HIV・肝炎等）の伝染する仕組みや予防策などを教えるのも良いと思う。知識があれば、それぞれの病気の患者への配慮もできるようになると思うし、偏見も持ち難くなるのではないかと思う。医療機関は、パンフレット等で啓発するのが良いと思う。
2. 教育機関が道徳の時間をじっくりとる。
3. 教育機関の義務教育からの教育。
4. まずは肝炎とはなにか、から始めるべきだと思います。身近に患者がいる人以外は、「名前だけ知っている病気」だと思われれます。差別があるのなら、その名前だけは病気だと知っている「恐怖」からくるものでしょう、それを解消してやれば良いと。小中学校での保健での教育、マスコミによる公正な報道等、気長にしていくしかないのでしょうか。
5. 教育機関。絵本・漫画等のわかり易い啓蒙書があると理解の助けになるかと思う。
6. 学校が、子どもたちに教育するだけでなく、父母にも講習会などをもうける。
7. 教育機関。エイズのように児童のときから正しい情報を知り、知識を積み重ねていくことで、偏見や差別を減らすことができるのではないかと思います。
8. 教育機関（特に低年齢層を対象とした）。刷り込み。考えが凝り固まってしまったら、周りがどう言おうが偏見は捨てられない。ならば、まだ成長過程でパーソナリティが固まっていない年齢層に対して刷り込み教育をするしかない。
9. 小さい頃から感染症についての正しい知識を教育する事は非常に大事だと思います。私の家の近くにハンセン病の国立療養所がありますが、小学生の時、担任に近くの公園で遊ぶと病気がうつると言われ、既に散々遊んでいた私はとても怖い思いをしました。成長して正しい知識が身に付いた時、担任が正しい知識が無く、心無い事を私に言った事に非常に腹が立ちました。偏見や差別は大人が子供に正しい知識を与えない事からおこるので、根本を正すためには教育機関から取り組むべきです。
10. 幼稚園、小学校など小さいころから、肝炎に対する教育をその時に分かる、理解できる、カリキュラムを組んで日常的に行ってほしい。
11. 小学校高学年ぐらいから専門家・医師・看護師・患者・患者の家族等呼び交えて話し合いをしたり、病気の内容を正確に教えていくことが大切だと思う。医療機関も啓発ポスターを貼って目にしてもらおう。医療機関は年寄りが多く、待ち時間も長いため、多少でも目にしていこうと思う。
12. 小学生のうちから学問の 1 つとして教育する。感染経路から未然に防ぐ方法、感染した場合の対処法、感染者への対応も含めて正しい知識を危機管理の 1 つとして学ぶ。保健体育の時間に 1 度聞いた程度ではすぐ忘れてしまうので、高校までしっかり何度も教える。
13. 中学生など、理解できる年齢になってから B 型・C 型肝炎についての病気について正しい知識を学び、病気に苦しむ方々の他の方から受ける偏見差別を学ぶべきだと思います。
14. 医療機関、教育機関、マスコミでその病気の特異性、感染源など、接し方などを指導した方がいいのでは。教育機関は中学校以上の保健衛生、倫理の時間。医療機関ではポスターなどで啓蒙。マスコミでは特番。
15. 中学生よりは理解力がありそうなので、高校で、通常の生活では感染するリスクはほぼないと教えるべき。
16. 小学校や中学校で、肝炎に関する正しい知識や認識をなるべく多くの時間教え、子供を中心に各家庭で話し合いをさせる。
17. 正しく教えることができるなら・・・という条件付きだが、十分に分別のつく年齢になってからの教育（高等教育、もしくは職場での教育、あるいは地域住民対象の教育）なら効果があると思う、が、専門知識のない教師が正しく教えることができるとは思えない。こうした知識教育の専門家（他の疾病や健康維持に関するものも含め）が必要だと思う。その上で、学校や職場や地域等では、折に触れ専門家を招いて話してもらえ、といったシステムを完備すべきである。

18. エイズと同様な事例だと思うので、エイズ教育を徹底させたように同じ要領で、義務教育機関がまとめて教育するのがいいと思う。小さい頃からきちんとしたことを教えれば、差別はしなくなるのではないかと。実際、50代の人と20代の人々のエイズに関する感覚が違うのは、こういった教育を受けたかどうかにかかっている気がする。

(他に同旨・同様回答 41件)

③医療関係機関を挙げるもの

1. 世界保健機関(WHO)が、B型・C型肝炎患者に対する偏見や差別の解消を世界規模で進めるシンポジウムのような活動を毎年日本で行なう。

(他に同旨・同様回答 2件)

④患者団体・患者会を挙げるもの

1. 患者個人が、マスコミへの露出。

⑤家庭・親を挙げるもの

1. 幼い頃から、親や学校で差別についての基本的な学習をさせる。差別をすることが、人間としてとても愚かで卑劣な行為だということを教え込む。
2. 各家庭の家族。国や行政で取り組んでも表面的な改善にしかならないと思います。病名を変えたり、安全だと訴えても人の考えは変わらないからからです。一番効果があるのは、小さい時から「どんな人間にも敬意をもって接する・差別をしない」ということを教え、一人一人の道徳心を育てる事ではないかと思ひます。個が確立した後に、考えを変えるのは難しいと思ひますので。

(他に同旨・同様回答 3件)

⑥その他

1. そもそも特定の事に対して差別感を無くすのであれば、わざわざその事柄自体を大っぴらに取り上げないのが一番。肝炎といっても、それを知らなければ差別自体は生まれない。知っている人間がわざわざ差別するのであれば、それは本人がどうにかするしかないであろう。特に、学校教育の様な場で、「知らなくても良い事」をわざわざ教えることこそが、差別の温床だと考える。
2. 例えにある、団体が一体となる必要がある。偏見、差別とは、正しい認識不足等が主であると考えます。幼い時から、差別や偏見を持つ様な教育は教育ではない。正しい知識を繰り返して認識出来る様に、啓発し教育していく必要がある。ただ、いじめ問題の様に年々、陰湿で巧妙な方法で人を陥れる様な社会の成り立ちにおいては、並々ならぬ精神力(タフさ)をも要求されるに違いなく、長い年月、細く長く継続していかなければならないと思ひます。
3. まず教師がしっかり理解して、子供たちにきちんとした説明ができること。その活動には保護者たちも同様に取り組むことだと思う。
4. 私はB型・C型肝炎がどのような病気で、またどのようにして感染するかなど全くと言っていいほど分かりません。エイズに関しては小学校の頃に学校で習うなどして、そこまで偏見をもたなくてもいい病気だということを学んだのですが、肝炎については学んだことがないために、偏見をもってしまうものであるということすら分かりませんでした。私のような方が他にもいるのではないかと思ひます。偏見や差別の解消には、その病気がどのようなものであるかを大勢の人に知ってもらう必要があると思ひます。ですから、マスコミを通して肝炎についての情報番組を流し大衆にもっと理解を促す、あるいは学校教育においてエイズと同じように、肝炎がどのような病気なのかを講義して生徒に知ってもらうなど、たくさんの理解が必要なのではないかと思ひます。

(他に同旨・同様回答 3件)

指導・教育の内容

	指導・教育の内容	回答数
a	肝炎についての正しい知識	54
b	差別・偏見問題について	11
c	その他(情操教育、人権教育、)	3
d	指導者・教員への教育	2
e	消極・疑問・批判的意見	4

教育・指導の手段・方法

	手段・方法	回答数
ア	授業・教科活動、教科外活動	43
イ	義務教育(として)	12
ウ	講習(会)・研修(会)・勉強会・セミナー	12
エ	講演(会)・シンポジウム	5
オ	テレビ・放送番組、特集記事、出版	12
カ	漫画・アニメ・映画・動画・DVD	2
キ	パンフレット・リーフレット・チラシ	3
ク	キャンペーン	1

(iii) 治療法・薬品の開発を挙げる回答例

1. 特にないが、騒ぎ立てること自体、患者に負担になるのではないかと。差別の解消前に、医療技術に力を入れたほうがよっぽどいいと思う。医療研究費の助成。
(他に同旨・同様回答 4件)

(iv) 法律・行政指導等に関する回答例

1. 国や自治体で、条例。
2. 国が、差別をなくすように法律をつくる。
3. WHO で、肝炎差別禁止の条約を作る。
4. 政府が、明らかに不利益や差別とみられる行為と認定したら、刑事罰をもって処する。人間、絶対に罰がなければ能動的に気をつけたり行動できる者は少ない。
5. 人権団体。個人がどのように感じるかがポイントなので、法律や規則で義務付けようとしてもまったく無意味だと思う。正しい知識を持つことが一番効果的。
6. (昨今は信用度が落ちて来ていると思うけれどやはりマスコミ(テレビ、ラジオ、雑誌等)。明確なデータを提示した上で特番を何度も組むなり、雑誌で特集するなりすれば良いと思う。一度や二度では中々多くの人目に触れないので、何度も取り上げる。データは正確性を重視して、関心の無い人やなんとなく見ているだけの人にもわかりやすいように砕いた内容にする。感情論が入ると信用性に欠けるので出来れば抜きに。実際に触れただけで本当に感染すると言うのなら、それを避けるのは差別でも何でも無い。自己防衛だと思う。そうでないのに避けられるのは確かに差別。知識の無さから来る漠然とした恐怖が偏見や差別が生んでいるなら、自ら進んで情報収集しない人間にも事実を周知させれば良いと思う) 法律による罰則は絶対に反対。必ず悪用する人間が現れる。
7. 職場や教育過程でやっていくしかないと思います。上の表にあったような法律による禁止、特に罰則ありなんてされたら、それこそ冤罪のリスクがありますし、関わり合いにならない方が賢い判断になる。利口な人なら関わりそのものを避けるのが妥当と言えるでしょう。何事もやりすぎはいけない。
(他に同旨・同様回答 28件)

(v) 救済機関・支援制度を挙げるもの

1. 厚生労働省などの行政や、民間資本から独立した公正取引委員会型の裁量と権限を持った機関が、差別に対する相談窓口の開設、さらに内部告発も含めた差別などの通報制度の確立と通報者の厳格なる保護制度、および行政による強制権・指導権を持った査察の導入(肝炎に限らず病気などの差別全般)。
2. 裁判所。風説の流布のような判例を確立し、法的に規制すべきだと考えます。
(他に同旨・同様回答 4件)

(vi) その他

1. 表向きにすると、かえって逆効果だと思う。
2. マスコミってバカだから国と一緒に無理に煽ってよけい偏見や差別が多くなる気がするが・・・。偏見や差別は無くならないものだからバカな芸能人を使ってCMとかするんじゃなくそっとしておいてあげて、そのぶん、国が補償とかに回せばいいんじゃないかと思う。
3. 本当にその目的のためだけの非営利組織でないかぎり、お役所の予算獲得手段であり、税金の無駄使いになる。日本という国の利己主義のなかでは、うそがまかり通る発言しかない行政が何をしても無駄とを感じる。本当のことを正確に説明できる信頼できる人間によるPRしか思いつかないが、それでも難しいと思います。
4. 医療機関。放射能と同じで、風評の対策は無意味。上記に予算をかけるより、雇用の有無により生活の保障を講じる方がいい。失職すれば再就職は不可能と思う。
5. 差別やら偏見やらは誰がどんなことをしてもなくなる。やるだけ無駄。
6. 偏見、差別があるとは思っていない。
7. ネット。病気の知識を広めるのは結構だが、差別というのは違うと思う。
8. 自分が他言しなければわからないので、むやみに人に言う必要がないと思う。身内以外に公表しない事。
(他に同旨・同様回答 15件)

問2-15：偏見や差別が生じる理由

B型・C型肝炎患者に対する偏見や差別が生じる理由として、上記以外の理由がありましたら具体的にお書きください。

(i) 肝炎についての知識・認識に関する回答例

①無知 知識不足を挙げるもの

1. わたしはB型・C型肝炎に対して、いままで知識も差別意識もなかったのですが、今回のアンケートの質問内容を見ると、差別されやすい病気なのかなという印象を受けました。正しい知識がないままであれば、わたしも偏見をもちそうです。
2. 感染の原因がよくわからないため、感染者個人の責任という意識があること。一方で、どのような接触で感染するのかを知らないがための忌避意識がある。これらは、それぞれを知ることである程度解消できると思う（要は、知らないことからくる「恐怖感」が大きい、それを社会的なシステムが増幅している）。
3. 感染の方法を正しく理解できていないことが最大の理由だと思います。以前、肝炎の事を調べた時には型による違い、感染方法もなんとなくわかっていたのですが、月日が流れた今では完全に忘れてしまい、今回のアンケートで改めて質問され、型がどうだったのかさえ曖昧になっていることを再認識しました。
4. B型、C型肝炎という言葉は聞く事があっても、そもそも型の違いは何なのかさえよく知らず、具体的にどうやって感染するのか、どういう症状なのか、どんな治療方法があるのか、完治するのかといった情報が世間あまり知られていないと思います。知らないから「怖い」と思ってしまい、偏見や差別が生じると思います。情報不足も一因だと思います。
5. 感染経路に関する周知不足は大きいと思う。「きちんと知らされていない」ことが不安を大きくし、偏見も大きくするのはないか。
6. C型は反社会的集団が良くかかる病気だと思っている方が多数いる。現に近くにも、C型肝炎の人は刺青を入れ、覚醒剤中毒者である場合が多い。
7. 教育は受けた覚えがありません。無知だからこそ自衛が過剰になっているのではないかと思います。あとは、肝炎患者で脚光を浴びる一個人が出てきた場合（肝炎アイドルといわれていた人がいたかと思いますが）、マスコミが容姿が良い人など興味本位で取り上げたり、違う面をクローズアップしたことで誤解を生むのではと思います。
8. 薬物の注射針や不特定多数との性交渉で感染したエイズ患者と肝炎患者とが、ごちゃごちゃになっていると思われるから。
9. ただ感染するとか、怖いとかだけが先行している。
10. （人間、詳しく分からない事に対しては）判断が二極化する傾向にあり、肝炎もそれに該当し、「怖い」、「感染しやすそう」などのマイナスイメージが先行してしまっているため。
11. 肝炎と一括りにされていて、酒飲みや刺青以外の感染ルートがあることが、あまり知られていないからだと思います。

（他に同旨・同様回答 51件）

②教育不足を挙げるもの

1. 学生時代に肝炎についての指導を受けた記憶がない。そのため私は、人がどういう理由で肝炎になるのか、そもそも肝炎がどういう病気なのかもわからず、必要以上に怖れてしまっているような気がする。差別をなくしたいのならば、もっと大々的に長期にわたって啓発活動に取り組んでほしい。
2. 義務教育のカリキュラムに無いことが大きいのではと思う。
3. 感染症そのものに対する教育の不足。どの様な感染症があり、其々どの様な経路で感染するのか、どのような症状があり、どのような治療するのかを学校教育（義務教育期間内）で教授されていないため。
4. 「誤解を生む教育がされているため」ではなく「正しい知識を教える教育環境ではないため」だと思う。自分が子供のころは肝炎についての授業などはなかった（十年以上前だからかもしれないけど）。子供のころに見聞きしたことは意外と覚え続けているものだと思うので、きちんと授業として取り入れるべきだと思う。受験対策の勉強も大事だけど、知らなければいけないことは他にもっとあると思う。

（他に同旨・同様回答 16件）

③情報・発信不足を挙げるもの

1. 情報化時代で良くも悪くも広がりやすく、きちんとした国や医療機関が正しい情報を流さないため、昔以上に特別な目で見られる。
2. 教育も報道もそうだけど、誤解を生む情報発信が横行しているわけではなく、そもそも情報発信がされていないだけだと思う。「差別は、間違った報道によるものだ!」と考える方は、報道だけを鵜呑みにするなどと言っている一方、報道を頼りにしているわけで、解決する方法は、喧嘩以外にもっとやり方はあるはず。

（他に同旨・同様回答 9件）

④不正確な情報・報道を挙げるもの

1. 肝炎訴訟などのニュースがメディアで取り上げられることにより、その病気を特別視してしまうため。
2. メディアなどで中途半端に報道されると、病名と悪いイメージだけが一人歩きして、誤解されたまま認識されること。
3. 誤解を生む報道というより、肝炎患者のバックグラウンドやどういう経緯で感染してしまったのかという部分ではなく、勝訴・敗訴の部分が強調され、本質が分からないと思う
4. マスコミが、何事も時には過剰と思えるほどの報道をすることと無縁ではないと思う。マスコミの冷静な報道こそ大事ではないか。
5. 差別と区別が曖昧なことが良くありますが、少なくとも私の身の周りで差別が行われている事例はみたことがありません。ただ薬害エイズの中途半端な報道のせいで、エイズと肝炎がイコールになっている人がいるであろうことは容易に想像できます。
6. ニュースでエイズ同様に大々的に報じられているので、なんとなく恐ろしく治りにくい病気なのだろうと思ってしまう。
7. とにかく知識の無さ、情報の無さに尽きると思う。現在のマスコミの報道姿勢は、まるでわざと誤解を生ませるためにやってるのかと思ってしまう。まあやってるんだろうけども。マスコミが襟を正して、面白おかしく茶化して報道するのをやめるべき。正しい報道をして信用回復に努めるべき。コメンテーターが余計なことを言うから狂う。事実を淡々と報道するだけで良い。報道しない自由で、大事な部分を隠すなど言いたい。ただ、偏見や差別は絶対に無くならないとも思う。当人の感じ次第でどうとでも変わる形の無いものを、単語一つで括って「良くないです、無くしましょう」なんて言うこと自体が無意味。
8. マスコミ報道は訴訟に関することが多く、そこだけ見れば、少なからず、特異な集団だなと差別するようになる人がいると思う。
9. 一面だけしか報道しないからだと思います。患者になって裁判で多額の賠償金を獲得して、その後患者がどうしたか、など報道しません。お涙ちょうだいだけで患者が可哀想では、見ていて納得がいきません。本当に薬害のせいなのか、自業自得の部分は？または、本当に肝炎患者なのか、という根本的なところに疑問を感じる患者の方もいます。
10. 患者の生活や発症してからの様子ばかりクローズアップして取り上げられるから、病気自体が理解されていない。病気としてのメカニズムを説明するような報道はなく、感染経路や患者の生活、裁判についてばかり報道するので、病気自体の理解につながっていない。そのことが、「自分とは違う事情の人達」という意識を生んでいるのだと思う。
11. 報道が中途半端。B型・C型肝炎の一般的認識が不足していることはわかりきっているのだから、偏見差別問題を報道する場合は、その都度、感染経路などについて正しく啓蒙する必要がある。いまの報道姿勢だと、ただのやぶ蛇。偏見と差別をばらまいているも同然。
12. 報道等で病院で肝炎で感染し、〇〇人が死亡した、原因は～ などと大々的に取り上げすぎるから。死亡人数だけの報道ではなく、どのようにして感染したかを正しく報道しなければならない。メディアの力は大きいから。

(他に同旨・同様回答 14件)

⑤医療従事者等の言動等を挙げるもの

1. 必要以上の患者の隔離が偏見や危険を助長することもある。
2. 誤解を生むような病院の医師による発言があるため。

⑥無関心を挙げるもの

1. この件に限らず、偏見や差別は人間のモラルの問題だと思います。これを解決するには、学校教育でモラルの時間を作り、時間を掛けて教育する必要があると思います。しかし、偏見や差別をする人はいつの時代にもいるので、これから先も絶対に無くならないと思います。
2. ①自分が感染していないと、無関心で正しい知識がないために偏見が生まれる。②自分が感染していないと、感染者よりハッピーに思うため、感染者を特別視するために生じる。
3. B型・C型肝炎患者に対してだけでなく、相手の気持ちを考えられない人が多いと思います。自分の身におきかえると普通は出来ないことなんです。

(他に同旨・同様回答 3件)

(ii) 人間の本性・本能・国民性・感情等に関する回答例

1. 日本人は大多数の人と違うものを持っていたりすると、差別する傾向が強いと思う。また、得体の知れないものに対する反発(?)も強い気がする。
2. 偏見・差別は自分はやらない!と書いていても、やはり人間の性分で、自分の身の心配からどうしても持ってしまうものなのではないかとも思う。なくすためには、病気に対するしっかりとした理解が必要だと思う。

3. B型・C型肝炎に限らず人間は本能的に自分とは異質な存在を怖がる習性があり、それが過剰な差別や偏見を生んでいると思うのです。長い間そういう土壌が定着してしまっている為、その偏見を無くすには同じ位の時間が必要かも知れません。
4. 外人、婦女子、貧乏、賃金、生活保護、部落など、あらゆる差別がまかりとおる国民性や政治がある。
5. 道徳教育の衰退と教育者のレベル低下、国の差別寛容政策、報道の片寄り等と高齢者の差別的考えの押し付けがある。日本に元来ある差別趣向好きの民族が、戦争等でも遺恨を残している。上から目線で、本質も知らずに、病気のことを論じるテレビ等も最近も多く、素人が悪い情報を正論のように流す風潮と新情報形態で、拡散が早い。
6. 偏見や差別という短絡的な枠組みではなく、自らを守りたい、あるいは周りの大事な人を守りたいという意識が働いているのだと思う。
7. 差別・偏見ではなく実際に感染リスクを自分が負いたくないのは当然の防御行為であり、非難されるべきではない。
8. リスクを回避しようとする気持ちは誰でもあるし、それを否定することもできない。が、そのリスクに対し、正しい回避の仕方を知らないから、やみくもに恐れて変な偏見や差別につながっていると思う。「無知故の悪」ではないのでしょうか？
9. 必要以上に偏見や差別に神経質になり過ぎていることが、余計に偏見や差別を生じさせているのではないかと。例えば、今だったら【障害者】と書きません。【障がい者】と書く。この神経質ぶりに、辟易するところがある。
10. 病気に関することで、しかも感染症で、というだけでもう恐ろしくてたまらないみたいなのがたくさんいるから。まったく種類が違う話だけど、最近、耐性の菌が増えているとか、海外から怖い病気が渡ってくるとか、いろんな情報が入ってくることも関係しているのかも。
11. 誤った知識を一旦持ってしまうと、どうしても偏見につながってしまう。たぶん、感染するという恐怖心から差別という行動に出てしまうのではないかと思う。
12. 経済力の低下などのために世の中が荒んで、「自分より下」の存在を作り上げ、攻撃することで自分を保ってしまうような貧しい心根の持ち主が増えたため。
13. そもそも上の選択肢で「性感染症と同一視されているため」というのは、性感染症患者への差別ではないのですか。読んでいて不愉快になりました。
14. 1. 感染患者への偏見があるため 2. 理由の如何にかかわらず感染経緯に偏見を持つ 3. 安全事例の発表が少ない為に、病名のみで差別される。
15. 肝炎患者に限らず、一般にハンディを持った人とは関わり合わずに済ませようとする。そして、それが許容される。これは、一種の偏見や差別なのだろうが。
16. 患者に対して「大変だろうな、可哀想」などと思うことも差別だと思います。危険と思うことも、可哀想だと思うことも本人からすれば大差がないかもしれません。偏見や差別が起こる理由があるとなれば、その人が自分の事をどう思っているかを聞かずに、自分の中で決め付けてしまう事だと思います。

(他に同旨・同様の回答 34件)

(iii) 患者側に関する回答例

1. 本人自身が告白した場合に、偏見、差別等が生じることになるじゃないかと・・・。
2. 患者自身も傷つくのが嫌で、正しく言わないからでは・・・。歯科医の友人が治療の最中に肝炎のことを告白され、皆で慌てて消毒等の対応をしたところ、不快な思いをしたから二度と来ないと言われたそうです。どのようなことにリスクがあるのか、お互いに正しく理解することが大切かも。
3. 他にも難病で苦しんでいる患者さんがいるのにもかかわらず、自分たちだけが特別だといわんばかりの、一部の患者さんのあまりに自己主張しすぎる態度などが批判の対象となる場合があると思います。

(他に同旨・同様回答 12件)

(iv) その他

1. 正しい知識が無く、団円で生活する様な場所では、必ず感染しているかどうかのアンケートがあるので、怖い病気のように感じます。正しく治療すると治りますと言う事は聞いた事がありますが、どのような病気なのかが分からないので、うつるのではないかと感じてしまいます。
2. 上記に日本社会にという記載があるが、差別はこの国でもあり、設問の設定自体に疑問を感じます。穿った見方をすれば、作為的な設問とも感じる事が出来るため、除外した方が良いと思います。差別自体は、動物として持ち得る本能であり、それ自体は特に問題は無いと思います。それを表に出すかどうか人間としての能力の違いであり、また、そのことをいちいち悪いことだと批判する人も、また、一つの差別と私は考えます。
3. 差別をなくす活動が、逆に差別されるような物事であると印象づけて、近寄りたがいのものになっている気がする。

4. 健康志向が続き、そうでないものが必然的に劣るかのような企業や、マスコミの体制がある。何でもかんでも病気に仕立て上げる最近の医療者の傾向が、患者に罪悪感、疎外感を抱かせ無用の偏見を生じさせる。
5. 周囲にいる人が病原菌をもっているかどうかわからない。わからないものは予防のしようがない。ナンセンスな設問だと思う。
6. きちんとした説明がなされれば、偏見や差別は生じにくいと思いますが、「どう思いますか？」とアンケートを安易にとることも、偏見や差別を助長しているような気がします。
7. このアンケートをするまであまり考えたことがなかった。むやみに問題視することで、余計差別が広がってしまうといけないと思う。正しい知識は必要だが、寝た子を起こすことにならないとよい。

(他に同旨・同様回答 2件)

問2-18：罹患を知られたくない理由

(B型・C型肝炎の患者が、B型・C型肝炎に感染していることを知られたくないと思う理由として、上記以外の理由がありましたら具体的にお書きください。)

(i) 差別の懸念を挙げる回答例

1. 就職で差別され収入格差が生ずること。
2. 特に会社において昇進や人事異動・給与などにおいて不利益を生じさせる可能性がある。
3. (全般) 治療費等の負担で経済的に困窮していると思われる。(職場) 休みがちになると誤解され、就職や昇進で差別される。リストラの対象になりやすいと思われる。(学校) 家庭が不潔な環境と誤解され、いじめの対象になりやすいと思われる。
4. 職場によっては、不当解雇の事案になる可能性がある。
5. 今まで通り仲間とのコミュニケーションを取りづらくなり、結果的には、差別や区別という扱いをされるのが怖いから。
6. (1)会社員の場合、昇進に関わるから(人事面で不利な査定を受けてしまう)、感染していることを知られたくないのだと思います。(2)B型肝炎、C型肝炎は遺伝するのでは…?と考える人が存在するので、知られたくないのだと思います。
7. 結婚が制約されるのではないかと考えている。
8. 自分の感染のために、家族が他人から差別の目で見られるかもしれないから。
9. 全ての人が正しい知識を持っているとは考えられないので、差別を受けるのではないかと心配。

(他に同旨・同様回答 31件)

(ii) 偏見の懸念を挙げる回答例

1. 差別、偏見、陰口、軽口。そういったことが起こりうるし、相手が何の気なしに言った言葉も、当事者は重く受け止める可能性がある。
2. 偏見を持たれてしまう。自分の居場所がなくなる・居づらくなる。

(他に同旨・同様回答 16件)

(iii) 不利益・不当な扱いの懸念を挙げる回答例

1. 学校などでは、修学旅行や家庭科の調理実習への参加などで学校側が過度な対応をしたりして、孤立したりいじめの標的になってしまう不安があるから。
2. 自分だけでなく、家族まで不当なあつかいを受けかねないと思うから。
3. いわゆる差別扱いをされそうな症状を患ったことがないし、周囲にもそういう人がいないのでわからないが、私自身は、空気感染をするならともかく、接触感染がなければ感染しないものについては特段、差別(忌避)意識がないのでよくわからないが、やはり集団から弾き出される(いじめ?)という恐怖感があるのではないかな。
4. 感染すると誤解され、いじめにあうかもしれないから。

(他に同旨・同様回答 24件)

(iv) 人間関係に影響の懸念を挙げる回答例

1. 普通の付き合いができなくなるのではないかと思うから。
2. 今の差別傾向のある流れを考えると、知られる前と後で人間付き合いに違いが出る可能性があると思うから、本当に理解のある人にしか伝えないと思う。ましてや職場や親戚など、自分自身を理解してくれてない人がいる状況では、闇雲に伝

えても、そこから偏見や差別が生まれて逆効果になる恐れがある。

3. 恋人や配偶者、子供たちと、触れ合ったりすることが出来なくなってしまうのが怖いと感じているから。

(他に同旨・同様回答 12件)

(v) 噂・陰口・悪・風評被害の懸念を挙げる回答例

1. 特別な病気に罹っている可哀想な人、というレッテルを貼られたくないため。

(他に同旨・同様回答 9件)

(vi) 誤解の懸念を挙げる回答例

1. 感染経路の誤解が一番大きいと思います。性交渉による感染だと思われることが最も恐れられているのではないのでしょうか。例え20年前に交通事故にあつてその時の輸血で感染したんだと、事実を述べてもそれを額面通りに受け取ってくれる人ばかりでは無いのが事実です。

(他に同旨・同様回答 38件)

(vii) 煩わしさの懸念を挙げる回答例

1. 感染の理由を詮索されて、いわれなき誤解を受ける場合がある。

(他に同旨・同様回答 14件)

(viii) プライバシーを挙げる回答例

1. 薬害も含めて自分が好んで受け入れたものでは決して無いのに、その怒りと悲しみは、「人に知られたくない」という気持ちが一番強いように思う。

(他に同旨・同様回答 19件)

(ix) 患者自身の心情を挙げる回答例

1. 余計な心配や特別な配慮を望まない。
2. 肝炎に限らず、病気にかかったときに、迷惑をかけたくないから知られたくない性格の人は多いと思います。けれど、肝炎は差別を受けるかもしれない病気だから、他の病気よりも大事な人に心配をかけたくない、迷惑をかけたくない気持ちはさらに大きいのかもかもしれません。
3. 相手に理解されたいけど拒絶されたらどうしようと、人間は必ず思うものだと思うから。

(他に同旨・同様回答 19件)

(x) その他

1. 相手によっては、心無いことを言う人もいると思うから、自分を守るため。自分を守るのも大事なことと思
2. 相手方の免疫力が落ちていて、高確率でうつる可能性があっても、性交渉をしたいと思うときがあるから。

肝炎をはじめとする感染症に関するアンケート

アンケートにアクセスしていただき、ありがとうございます。

このアンケートは、以前にお送りした「感染症に関するアンケート」にお答えいただいた方にご案内しております。

このアンケートは、感染症に関して日頃皆様がお考えになっていることとお聞きする目的として、厚生労働省から研究を委託された「肝炎ウイルス感染者に対する偏見や差別の実態を把握し、その被害の防止のためのガイドラインを作成するための研究」班と「集団生活の場における肝炎ウイルス感染予防ガイドラインの作成のための研究」班からの依頼を受けて、株式会社インテージが実施しています。

一部、答えづらい設問があるかと思いますが、次のページに掲載いたしました研究の趣旨をご理解のうえ、無理のない範囲でご協力ください。

なお、アンケートの回答内容はすべて統計情報としてのみ使用し、個人を特定できるような情報が開示されることは一切ございません。
ご協力いただける方のみ、お進みください。

ご協力いただける場合は「開始」ボタンを押し、回答を開始してください。

開始

アンケートにご回答いただく皆様へ
—御協力をお願い—

この調査は、平成24年度厚生労働科学研究費補助金を受けて行う「肝炎ウイルス感染者に対する偏見や差別の実態を把握し、その被害の防止のためのガイドラインを作成するための研究」班と「集団生活の場における肝炎ウイルス感染予防ガイドラインの作成のための研究」班の研究の一環として行われるものです。

この研究は、肝炎をはじめとする感染症や患者に対する一般生活者の認識や意識を把握し、医学的及び法律的観点から分析・検討を行い、患者に対する偏見・差別被害の防止や感染予防のガイドラインを検討する上での基礎資料とすることを目的とします。

このアンケートにご協力いただくかどうかはみなさまの自由意思にゆだねられており、アンケートへの回答をもって同意の意思があると判断させていただきます。回答された後の同意撤回はできません。なお、調査結果はすべて統計処理され、研究班の報告書、学会発表、論文などの形で公表させていただく可能性がございます。みなさまお一人お一人を特定する情報は私たち研究者にはいっさい伝えられませんので、ご協力いただいた方にご迷惑をおかけするようなことは一切ありません。

ご回答いただく際は、本やウェブサイトを参考にせず、あなた自身の考えでお答えください。
本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

「肝炎ウイルス感染者に対する偏見や差別の実態を把握し、その被害の防止のためのガイドラインを作成するための研究」班
代表 学習院大学法科大学院客員研究員(弁護士) 龍岡 資晃
「集団生活の場における肝炎ウイルス感染予防ガイドラインの作成のための研究」班
代表 東京大学大学院生体防御感染症学(医師) 四柳 宏

上記の内容に同意頂き、アンケートにご協力頂ける場合は、「同意する」を選んでアンケートへお進みください。

- 同意する
 同意しない

次のページ

はじめに、感染症全般についてお伺いします。

Q1_1 感染症の広がり方に関して、あなたの考えをお伺いします。以下の感染症はそれぞれ、どのようにして感染すると思いますか。あてはまると思うものをすべてお答えください。

(回答は横の行ごとにいくつでも)

※本やウェブサイトを参考にせず、あなた自身の考えでお答えください。

	くしゃみや咳によって 空気中に放出された病原体を 吸い込むことにより感染する	病原体が食事と共に 口から入ることにより感染する	病原体が皮膚や粘膜から 入ることにより感染する	血液などの体液を介して病原体が 体内に入ることにより感染する	性交渉により病原体が 体内に入ることにより感染する	具体的に その他の方法で感染する	わからない
インフルエンザ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
麻疹(はしか)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
O157(病原大腸菌)感染症	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ノロウイルス感染症	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
MRSA(メチシリン耐性ブドウ球菌)感染症	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
エイズ(HIV感染症)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
A型肝炎	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
B型肝炎	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
C型肝炎	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

次のページ